

(7月号より続き) ひとまづわ こわきおそろしいと云ふ日もありた 実わ天の理へハまこと一ツの里と云ふ 一度二度三度わミ」(110ウ)

なゆるしてある かわい一条からゆるしをいたるなれど 心の里よりおこる事情 みなかなわん 此道とゆふわ 元二ハほそい道 所々どふとゆふものもなし きよのところ よふへ所へ道ひらけたる 是一ツの台としてひろめた だんへ道と云ふ 是迄のところ道とゆふ 是までの所をいはらわれ とりはらわれ とんな事情もある はやなれときよとゆふ みなそれへ」(111オ)

里それへで里 心をさまりたるわ しんじつたいと云ふ よふきゝわけ 此迄かんなんの道とをしてある とんな日もありたやろ なんでもと云ふ 世界国々それへおゝく道がついて一ツへ兄弟の元をこしらへかけたる 兄弟と云ふ里きゝわけ人間とゆふ元々一ツの里ヨリはしめたる 兄弟なら兄弟と云ふいみがなくばならん なれと中に兄弟心かあわん物もある みなそれへ心より」(111ウ)

あわせてくれ きいたる物よりあわせてやれ そこできいたる里 神のじゆよふと云ふ 日々うたがい すつきりはれてこそ里とゆふ 身内かり物【の里八日々といっている 日々とがしている 日々世界】の里を出す 元わからんからみなよせたる それへの心の里をあわすなら どんな事もかなわんとわいわん 兄弟といふわ今一時さとしりが兄弟の里 なるも 神ならんも神と云ふ里わこふと云ふせいしんを」(112オ)

さためるなら受取らんとゆわん 受取にやならん 受取はあんしん ミなみなあらためて定めてくれ いまの一時とふなるふと ゆふよふにならねばあとの里がわからん あとの里かわからねば さきの里がわかりそふな事ハない よくあとへしやんして みな兄弟さとしよふて さためてくれるかよい 押え願ひ」(112ウ)

さあへたつねる処に とんな事情さとしてくれにやならん うつとしいよふな日でも又てる事もある かげばかりやない 是一寸さとしておこふ

(注) 【 】内は欄外のもの。正文と比較するとき、細かいところの異同があり、脱落している語句もしばしば見受けられる。

42 明治廿九年三月廿三日 午前二時刻

なかへあんな事わいくもんかいへ どふへかへつたへ むこふにみえたへ なかへゑらい事してきたなあへ あんな事ハ一寸にいけんでへ ど」(113オ)

こからとこまでゑらい事してきたなあ どんなやつも おれひとりいふてしやつたやつが よふはたらきよつた そらもふしよへの事ハなんといふおふとも あかんへ となりのやつが ほろくそにゆいおふたのに こんどわなかへやりよつたなあ とふくやなあ こんどの秋の大祭ハとふやろふ ゑらい事やろふ なにほつておいても いかんならん 本部もおなし事になりて」(113ウ)

くれて とおい処へゆきや ぜにもつてゆくかとゆふてくれたもつてゆけと まあかりわせなだけれど こんどの秋にわ大祭にわ なんでもせいだしておいて 前日からつたわしても

らおやないか いこへ とこへいたとて あんなけつこふなとこわ ありやせんで また五六年あとわ ほろくそにぬかした とこもかしこも ゑらい事務所たてよつたなあ おれら」(114オ)

のよふな物も とをい処へゆけば こづかいもつていけとゆいよつた とをい処の事やないで ちかい処がわからんでへウゝへへへへ

さあへもふはやいものやへ 三十年たつた 古いものわとんならん あちらでなくなる こちらでなくなる そのときちよとまにをゝた せかい第一 てんが第一 とやへ なにをゆふやろふとお」(114ウ)

もふた 今迄ハ其とをりなりである 今迄ハ一日の日も ゆつくりとした日かない たのしみさしてやろ ほかにもふないもの さいならとゆふで でゝ今てハ」(115オ)

(115ウ) 空白

(注) 刻限のおさしづである。正文と比較するとき、細かい語句の異同が目立つ。とともに、このおさしづの全体の半分ほどしか記載されていない。あえていえば、115の空白頁に残りを記載するべしであったか。

43 廿九年四月四日夜壹時刻限御咄し

もふとんならんで あかさんで ウワアー さあへふでにつけかけへ とふゆふ事ときかけるなら なかいあいだ きよゆふて きよきたものでもあろふまい ばんじのところ てをつないでいかにやならん まあよの処でこれたけの人じゆでいくわけあろふまいへ さんけえをせずにてわならん にんじゆの処で七十五人までいるとゆふ事」(116オ)

ハこれまでにゆふである とふゆふものなら おゝくでゝくるものに わすかのにんでおくものか もふせきをしかけてハ やすみへ これまでの処ハ一寸さんけいわ しにくかるふ なんほいふてもとりつぎにんず ふやす事できんか あす日になつたらみなだんじおふて あす日 席にへんとふせにやならん さんけいたけでわ受取とれん それをはこんでこそ さんけいと云ふ こんや」(116ウ)

のさしすハゑくいさしす ゑくいさしすやなけにやきかせん もふこれ いくめなんにんわ これまでにむもれた あすこの道ハ会儀ヨリなりたつみちか 会儀するからをくれる でゝいるものも あす日はやくミなよびよつてしまへ このまゝおくれれば びいくりするよふな事できる できでからなにもなりやせんで」(117オ)

(注) 脱落している語句あり。

44 廿九年三月廿二日 夜八時五十分 御指図

なからくのさしづ なにもならせんへ さしづたのしむハさしづ このくいきの里といふものハどこにある とこにもありやせんで どふなりこふなり 十年祭たつた よふふんはりてくれたへ これで十年祭すゝやかてけた ざくろふであつたへ さしづへ さしづけつこふとおもふてこそ けつこふへをもわんから さしづわしやま」(117ウ) になるへ